

# 平成26年8月豪雨に伴う広島市災害廃棄物処理の概要

平成28年3月  
環境省中国四国地方環境事務所  
広島市環境局

## 初動対応 (発災直後～3週間)

- 平成26年8月19日～20日、広島市北部（安佐南区・安佐北区）で記録的豪雨（最大時間雨量115ミリ）が発生し、大規模な土石流やがけ崩れ等により死者76人（災害関連死認定者2人を含む。）等甚大な被害
- 人命救助を最優先のうえで、国、広島県、広島市が連携して道路啓開を実施
- 広島市環境局は、特別清掃対策部を設置し、災害廃棄物の収集運搬及び処理を開始
- 政府は、調査団の派遣、現地対策本部を設置
- 環境省は、伊豆大島での大規模土砂災害において災害廃棄物処理を支援した職員・技術専門家を派遣、中国四国地方環境事務所に災害廃棄物対策本部を設置
- 広島市の災害対策本部員会議に国・県も参加（国・県・市の合同対策本部）
- 広島県は、南区出島地区の出島処分場及び第3工区への災害廃棄物の受入を表明
- 広島市は、災害廃棄物処理工程表を公表及び予算措置（平成26年9月5日）
- 1次仮置場の選定・確保（12か所）



安佐南区八木地区

## 応急対応 (発災後3週間～2か月)

- 広島市は、災害廃棄物処理計画を策定（平成26年9月14日）
- 広島市有地「メッセ・コンベンション等交流施設用地」（南区出島地区）を2次仮置場【中間処理施設】とし、土砂混じりがれき等を処理  
災害廃棄物（不燃物）は「出島処分場（広島港出島地区廃棄物等埋立処分場）」へ搬入  
分別土砂は「第3工区（広島県出島地区埋立事業用地第3工区）」へ搬入
- 広島市環境局に災害廃棄物処理担当（9人）を設置（平成26年10月1日）
- 被災地からの災害廃棄物撤去  
宅地のがれき（～平成26年12月）  
農地のがれき（～平成27年5月）
- 1次仮置場運用管理（～平成28年2月24日）



2次仮置場【中間処理施設】  
(メッセ・コンベンション等交流施設用地)

南区出島地区の2次仮置場等

## 処理着手 (発災後2か月～7か月)

- 災害廃棄物推計量（58.4万トン）及び処理計画の見直し等（平成26年10月24日）
- 災害廃棄物処理事業報告（平成26年10月31日）
- 災害査定（平成26年11月25日～28日）  
補助申請対象事業費 約73億円（国庫補助金約36.5億円、特別交付税約29.2億円、一般財源約7.3億円）
- 仮設中間処理施設整備・運用管理等の「災害廃棄物処理業務」の発注（平成26年11月27日契約）
- 災害廃棄物の処理及び最終処分等（平成27年1月～平成28年2月）



仮設中間処理施設の整備



仮設中間処理施設における分別

## 処理実施・完了 (発災後7か月～1年7か月)

- 遺失物及び思い出の品の管理  
(遺失物1,751件、思い出の品965件、計2,716件)
- 見学・視察対応（25件、250人）
- 処理状況  
(発生総量) 推計量58.4万トン⇒実績52.3万トン  
(処理総量) 522,304トン  
(リサイクル量) 517,777トン  
(リサイクル率) 99.1%
- 1次仮置場及び2次仮置場【中間処理施設】の原状復旧



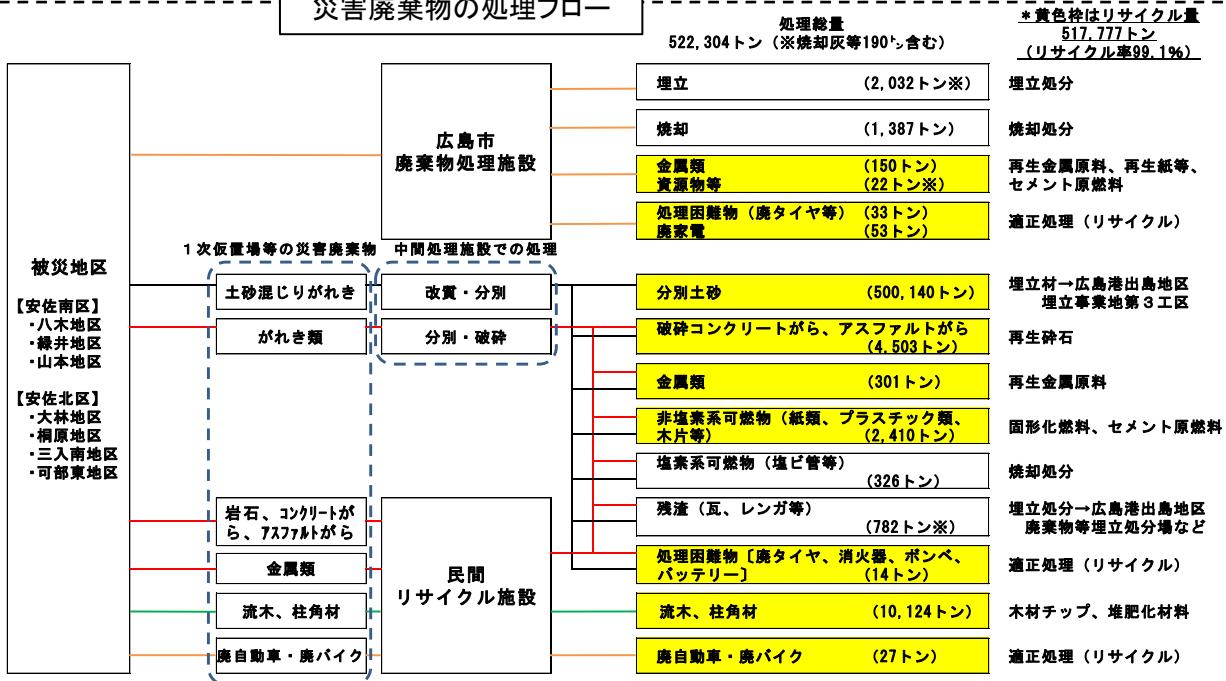
手選別ラインによるピックアップ



280108  
01手提げかばん  
10 手提げバック

「思い出の品」の閲覧用アルバム

### 災害廃棄物の処理フロー



### ○成果

- 国・県や広島市各部署にて分担⇒被災地からの土砂混じりがれき等を早期撤去
- 環境省の職員・技術専門家の派遣、技術的助言等⇒広島市における災害廃棄物処理計画の早期作成
- 広島県の出島処分場及び第3工区への受入等⇒アウトプットポケットの確保
- 地元の要望を踏まえた処理計画⇒地元提案を早期に調整し反映
- 「真砂土」に合わせた分別方法の採用⇒高いリサイクル率⇒最終処分量の軽減

### ○課題

- 1次仮置場候補地の選定⇒未利用地を含めたより広い場所のリストの作成、状況変化に合わせての更新
- 大規模災害時のアウトプットポケットの確保⇒国、県の情報提供
- 災害廃棄物発生量の推計⇒人工衛星による測定等、高精度情報が早期提供される仕組みづくり
- 土のう袋の品質（切れ端が中間処理の障害）⇒品質管理と生分解性製品開発等の確保